

# 学校評価アンケートの結果

令和6年度 川永小学校

別紙にあるように、学校評価アンケートの結果を柱状グラフに表してみました。

上段、斜めの網掛け部と少し濃い色の部分が肯定的な回答（「とても思う」「まあ思う」の合計）で、その下にある網掛け部と、一番色の濃くなっている部分が否定的な回答（「あまりそう思わない」「思わない」）となります。保護者用では、更に最下段に「わからない」の網掛け部分があります。

昨年度のアンケート結果と肯定的な回答の増減を比較すると、児童では、⑤「掃除を一生懸命している」がほぼ同等だった以外すべての項目において肯定的な回答の割合が増加しています。中でも増加率の高かった項目は次の3項目でした。

③わたしは、毎日の勉強がわかる。

⑦わたしは、家族に学校での出来事をよく話す。

⑧給食の時間が楽しみだ。

当然、否定的な回答の割合が減少し、中でも①わたしは、学校が楽しい。と⑥わたしは、命の大切さや社会のきまりについて学んでいる。の2項目については、「思わない」の回答がありませんでした。肯定感が増進している児童の様子をうれしく思うとともに、「あまりそう思わない」の部分も含めて、否定的な回答の「0」を目指して努力していかなければなりません。

保護者の回答では、16項目中、8項目で肯定的な回答の割合が増加し、4項目で減少、4項目で微増が変わらずの結果でした。減少した4項目を挙げておきます。

1. 学校は、学校の教育活動や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝えている。

2. 学校は、子どもに分かりやすい授業を工夫している。

7. 家庭・地域は小学校に対してそれぞれの役割を果たし、連携・協力している。

12. 子どもは、誰にでも挨拶ができています。

中でも、2.の「分かりやすい授業」についての回答で「思わない」の増加もありましたが、「わからない」との回答が6倍以上増加したのが特徴的でした。同じく学校としての取り組みの弱さの表れであろうと思われる1.の「教育活動や子どもの様子を伝えている。」についても意識をもつ必要を感じています。これは、肯定的な回答の割合が増加しているか、昨年同等であるのに、「思わない」との回答が増加してしまった2項目「6. 学校は、子どもに生命を大切にする心や、社会のルールを守る態度を教育している。」と、「13. 子どもは、給食の時間を楽しみにしている。」の項目が、児童での同様の内容での問いかけでは、一定の成果が見られていることから、今後も、子どもたちへの直接的な取り組みだけでなく、保護者の皆様にも知っていただくことでご家庭の協力もいただきながら取り組みを進めていきたいです。

昨年も書いたことですが、児童にとっては、毎日の学習がわかってこそ、心のゆとりや学校・自己・他者への肯定感が育ち、読書活動、掃除、あいさつと、他の行動にも影響を与えるものと考えます。また、いじめや、トラブルは無いのが理想ですが、起きたとしても、児童とともに解決していけることが安心感につながると考えます。日々の授業や学校生活について、これからも職員一同、常に見つめ直し工夫を重ねて行きたいと考えます。アンケートの結果を真摯に受け止め、一人ひとりの子どもたちが大切に認められ活躍できる学校であること、いじめを許さないことをめざして、これからも努力して参ります。ご協力ありがとうございました。

(校長 淵川保直)